

市民の市民による市民のための
京都市新ごみ処理基本計画



ごみを通して考える 美しい京都
ごみを通して描く 15年後の京都
ごみを通して集う みんなの京都



京都「護美」15年計画キャンペーン

企画（案）

2002.11.22

京都市環境局
京都市廃棄物減量等推進審議会協働（コラボレーション）部会
京都市学生有志
KBS 京都 Radio



はじめに



21世紀に入って2年、新しいミレニアムを感じさせる息吹が生まれつつある一方、20世紀からの積み残しである多くの社会的問題が一気に噴出してきています。その一つとして大きな転換を迫られているのが、私たちの生活に密着している「ごみ問題」です。

ごみ問題は、埋立地の不足や不法投棄、処分場周辺の住民健康問題などといった形で露呈してきます。京都市においても、処理コストの増加、有害物質対策、分別を巡る様々な意見など、未解決の問題が多く見え隠れしています。これらは、多様な要因が複雑に絡み合っているものであり、一つの原因を取り除いて解決できるものではありません。従って、多様な関係者がこれらの問題を少しずつほぐし、新たに繕い直すことが求められているのです。

その解決の方向性として認識されつつあるのが、循環型社会の構築です。これまでの物の流れは、資源から製品を生み出す生産・製造者から、それを消費してごみとして排出する消費者、ごみを処分する自治体などへと一方通行でした。こうして途切れてしまう物の流れを、ごみを再び資源流に戻すことによって繋ぎ直そうというのがこの動きの基本的な考え方です。これを京都に当てはめて考えた場合、世紀を越えた文化・伝統の息づくこの町には、資源循環を輪にする多くのヒントが秘められています。良い物を長く使う生活のありよう、「しまっ」をキーワードにした様々な知恵や風習など…これらのヒントを掘り起こしながら、その上に塗り重ねるように新たな世紀にふさわしい京都像を描くことが21世紀のスタートを切ったばかりの私たちに課せられたテーマと言えるでしょう。

このような背景のもとで、京都市はごみ減量化に向けた施策の方向性を見直すべく、新ごみ処理基本計画（以下、「京都市新ごみ処理計画」）の策定作業を進めております。これは、重要な転換期にあたる今後15年間のごみ処理のあり方を決めるものであり、15年後の京都市とそこで生活を営む全構成員の将来像を描く作業でもあります。

この「京都市新ごみ処理計画」を京都市の全構成員のものとして策定・展開することを目的に、京都「護美」15年計画キャンペーンを実施します。



コンセプト&ポイント



市民の市民による市民のための京都市新ごみ処理基本計画

ごみを通して考える 美しい京都

ごみを通して描く 15年後の京都

ごみを通して集う みんなの京都

- ・これらのキャッチフレーズのもとで、「京都市新ごみ処理計画」策定作業と連動して一連のキャンペーンを行うことにより、計画に市民の意見を反映できるようにします。
- ・同時に、ごみを通して15年後の京都の将来像を描く作業を、市民を主役として行うことにより、ごみ対策の目的や意義への理解・認識を共有していきます。
- ・また、計画策定後もキャンペーンを継続することにより、ごみ対策の実行を支援すると同時に、計画の実効性を検証する場としても活用します。
- ・さらには、地球環境問題を含めた広い視点で、市民の意見が結集し、深まるような展開を目指していきます。
- ・キャンペーンの実行については、市民、行政、企業、学生、メディアなどがそれぞれの特性を理解し、それを活かした役割を担い、協働（コラボレーション）を実現します。
- ・キャッチフレーズに沿って、大きく次の3つの企画を実施することにより、様々な関心層を巻き込んだキャンペーンを展開します。

ごみを通して考える美しい京都…「ごみ窓（仮）」ネットワーク化

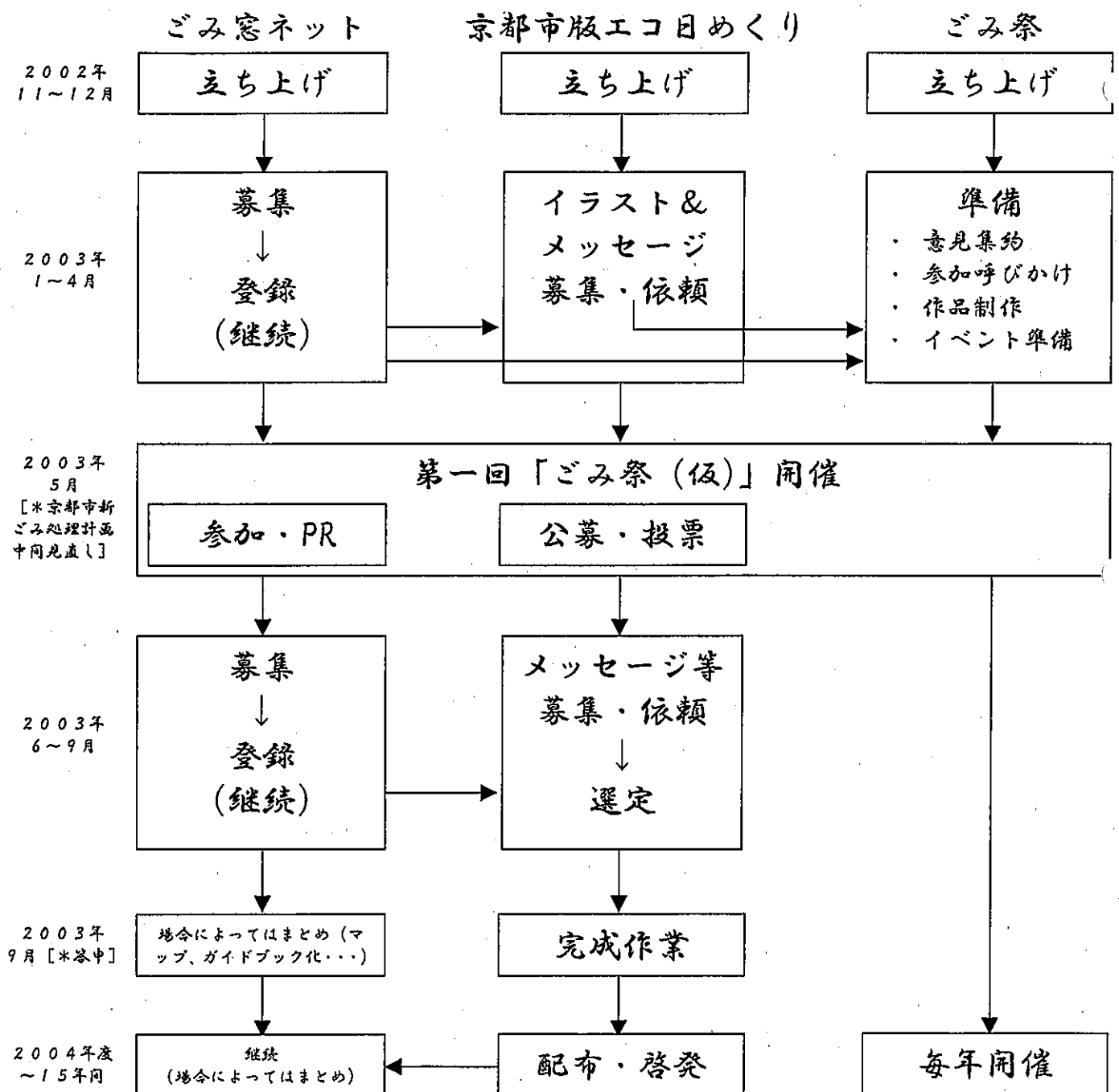
ごみを通して描く15年後の京都…「京都市版エコ日めくり」作成

ごみを通して集うみんなの京都…「ごみ祭（仮）」実施

企画の概要

★1★

キャンペーン全体像&タイムスケジュール



★ 2 ★

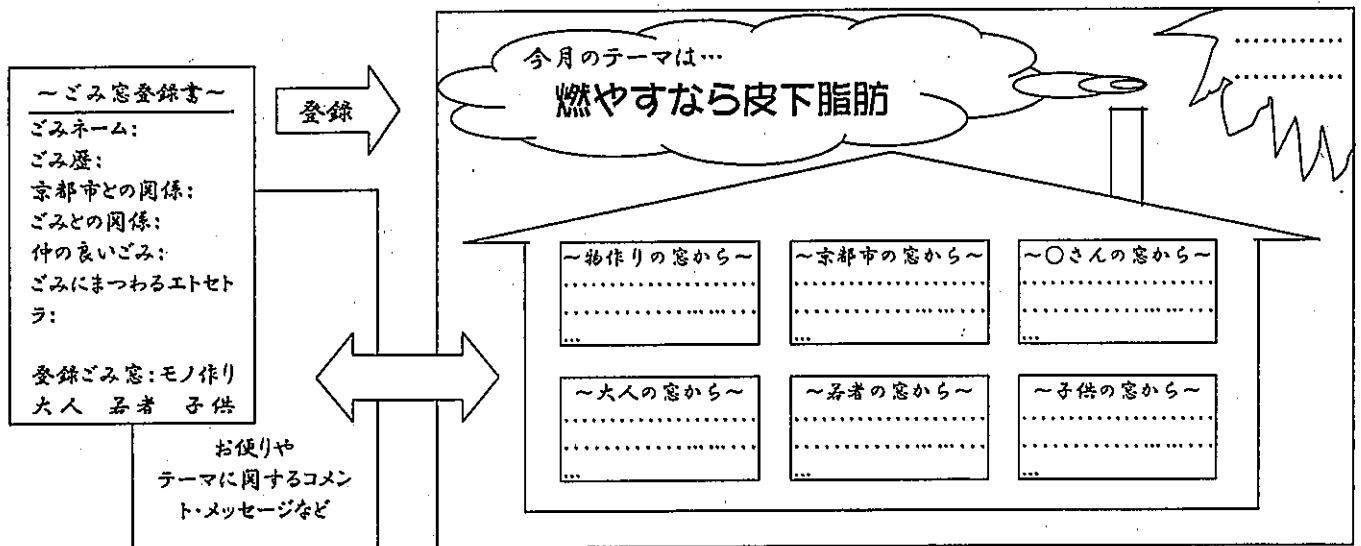
ごみを通して考える美しい京都 「ごみ窓 (仮)」ネットワーク化

コンセプト

「ごみ問題」は、私たちの生活と「地域環境」、さらには「地球環境」を繋ぐ窓です。この窓を通じて、様々な世界を覗くだけでなく、地球環境問題も含めた広い視点に立ち、自分たちの生活を見直すことができます。各人や団体それぞれが持っている「ごみ窓」を緩やかなネットワークにすることにより、想像力の膨らむ広がりを持ったごみ関連活動を支援します。

具体的には…

- ごみ窓登録…自分の持っている「ごみ窓」の紹介を含めて、ごみ窓登録メンバーを募ります。気軽に参加できる面白い形式にします。学校・団体からの参加も積極的に募ります。
- 「ごみ減量等推進会議」の市民版のようなイメージです。
- 集約…エコロジーセンター等で展示・紹介などを行います。
- ごみ窓通信…掲示板に貼れるサイズの印刷物（下図のイメージ）を年に数回発行し、各所での啓発を行い、また緩やかな連帯を図ります。
- なんらかの形で出版物にまとめることも検討します。
- 「京都市版エコ日めくり」完成後は、これもネットワーク化の材料にします。



ポイント

- ・ 視点の広がり
- ・ 個別活動のネットワーク化
- ・ 多様な主体間の連帯感の養成

★3★

ごみを通して描く15年後の京都 「京都市版エコ日めくり」作成

コンセプト

世紀を越えた文化・伝統の息づく京都の町には、「ごみ」とうまく付き合い、暮らしやすい環境を保つ多くのヒントが秘められています。良い物を長く使う生活のありよう、「しまっ」をキーワードにした儉約や節約のための知恵や風習など・・・それらのヒントを掘り起こしながら、現在の暮らしぶりと比べたり、15年後の新たな暮らしの合い言葉を见いだしたりします。それらを「京都市版エコ日めくり」にまとめることにより、京都市内外に向けて継続的に情報発信・啓発を行います。

具体的には…

1. メッセージやイラストの募集・依頼…一般市民・団体の方々、ごみ処理に従事する方々、京都の伝統に関連した方々、観光客の方々に募集・依頼して、15年後の京都創生に向けた「ごみ行政」や京都市民の暮らしのありようについてメッセージ（標語）やイラストを集めます。
2. メディアを通じたメッセージの発信・紹介…上記の中の多様なジャンルの方々から、「ごみ」にまつわるエピソードや「ごみ」を通して見た様々な世界、「ごみ」を通して描く将来の暮らしぶりなどについて話をきき、メディア（ラジオ）を通じて紹介します。
3. その他のごみ問題をテーマとした様々な募集作品との連動を図ります。
4. メッセージ・イラストの選定…ごみ祭やメディア、展示会などにおいて投票を行ったり、意見を受けたりした上で、バランスも勘案して最終作品を選定します。
5. 完成…右図のようなイメージでエコ日めくりを完成させます。
6. 配布（販売）…完成した日めくりは京都市内外に広く配布（販売）します。特に環境教育などへの利用を促進します。
7. メディアを通じた啓発…日めくりの標語などをメディア（ラジオ）を通じて継続的（毎日）に発信することにより、啓発活動を行います。

21

↑日付のみで何月でも使用可

[標語&イラスト]

ポイント

- ・ 伝統の掘り起こしと新たな生活文化の模索
- ・ 多角的アプローチ（芸術性なども重視）
- ・ 広い応用・適用範囲

★ 4 ★

ごみを通して集うみんなの京都 「ごみ祭 (仮)」実施

コンセプト

「祭の町」京都には、自然や様々な物事、人などへの思いを京都流に演出する技が脈々と受け継がれています。そんな京都にふさわしい祭を、ごみをテーマに演出することにより、新たな「集い」の場を創造します。

初回は「京都市新ごみ処理計画」の中間見直し報告を材料に、市民への情報公開を直接行うと同時に、市民の意見を引き出せる場を用意し、意見の取り込みを積極的に進めます。同時に、若者からお年寄りまで楽しめるイベントを開催し、様々な層の巻き込み・参加を図ります。

二年目以降は、計画の実施状況や達成度をチェックし、改善に結びつける場としても利用します。また、市民の声で祭の形を進化させていきます。

具体的には…

- 第一回日時：2003年5月30日（ごみゼロの日）前後
- 場所：未定（メイン会場は広い場所／複数スポット展開もあり）
- 護美みこし（鉾）巡行…有名な寺社仏閣（その祭などの行事）で集めたごみで、みこし（鉾）にみたてたオブジェを作成し、それをついで町を練り歩きます。
- 協賛アーティスト・演奏家によるライブ
- ごみアート展
- 「京都市新ごみ処理計画」案内コーナー…京都市のごみ処理の実態・問題点から計画見直しの進捗状況までをわかりやすく展示・説明します。
- 公開ディベート…ごみ問題の争点であるいくつかのテーマについて、様々な世代・所属・意見を持つ市民によるディベートを開催します。
- 体験コーナー…ごみ収集車への投げ込み体験など
- 「京都市版エコ日めぐり」公募・途中作品発表（投票）
- 「ごみ窓」ネットメンバーの展示コーナー、出し物、ブースなど
- 「ごみゼロの旅」…市民や観光客とともに「ごみゼロ京文化」などの小旅行（町歩き・ハイキングなど数コース）を実施します。そのコース作成には地元小学生・住民・学生らの協力を求めます。
- その他…他団体主催のフリーマーケットなどとの連動を図ります。

ポイント

- ・ 明るく楽しい
- ・ 多角的アプローチ（芸術性なども重視）
- ・ 京都市内外の多様な層による参加型イベント



实施体制

